

子どもたちが楽しみながら、苦手な運動の克服につなげる取組

学校名 長門市立深川小学校（山口県）

全校児童数 506名（男子256名 女子250名）
（本実践に係る問合せ先）

電話番号 0837（22）2426

学校メールアドレス hukasyou@hot-cha.tv

1 実践（研究）のねらい

- (1) 楽しい運動遊びを経験することによって、運動が苦手な子どもも体を動かすことを好きになることができる。
- (2) 一流選手に教えてもらったり動きを見せてもらったりすることで、憧れの気持ちを持ち、子どもの運動意欲を高める。

2 実践（研究）の概要

(1) 課題について

H29年度の体力テストでは、50m走の記録がH27年度の全国平均よりも下回っている学年が多く、走ることに課題があると言える。

(2) 期待される成果（仮説）について

子どもたちが走ることを中心とした運動遊びを経験することにより、体を動かす楽しさを味わったりいろいろな遊び方を知ったりすれば、休み時間にしっかりと体を動かすようになるだろう。

トップアスリートの動きを見たり、直接指導してもらったりすることで、意欲的に運動に取り組むことができるようになるだろう。

○課題を解決するために実践した具体的な取組について

1 具体的な取組内容・方法、取組を進める上での工夫点等

(1) 運動遊びの充実

○山口県レクリエーション協会による運動遊びの実施

1年生から4年生までの児童を対象に運動遊びを行った。運動量を確保できるように、学年ごとに1時間ずつ実施した。また、走る活動を楽しんだり、昼休み等に子どもたちが遊んだりできるように、鬼ごっこを中心とした運動遊びにした。また、さらに遊びたいと思った子どもたちの思いを大切にするために、昼休みに希望者を集めて実施した。

(2) トップアスリートによる運動教室

○タグラグビー教室の実施

12月に開催されるタグラグビーの大会に向けた練習と、全員にタグラグビーの楽しさを味わわせるために、ラグビー女子日本代表選手である富田真紀子選手を招き、5年生、6年生を対象にタグラグビー教室を行った。基礎的な動きの練習の中にも、試合で必要となる要素を入れて指導していただき、大会に出る子どもにも出ない子どもにも充実した楽しいものになった。

○児童児童の安全を確保するため配慮（工夫）したこと

運動する場所を広く取れるようにし、サポートする大人の人数を確保することによって、子どもたちが安心して、思いっきり運動に取り組むことができるようにした。

○成果の意義と今後の課題

- 1 子どもも教員もいろいろな運動遊びを知ることにより、授業で行ったり休み時間に遊んだりすることができるようになった。継続的に続けていけるようにしたい。
- 2 タグラグビーをさらに好きになったり、大会に対する意欲を高めたりすることができた。来年度以降にもつなげていきたい。

○ 研究内容

山口県レクリエーション協会との活動

鬼ごっこを中心とした運動遊びを紹介してもらい、楽しみながら走る運動をしっかりと行うことができた。



昼休みの遊び

希望者を昼休みに募って、さらに運動遊びをする時間を確保することによりしっかりと楽しむことができた。



タグラグビー教室の様子

トッププレイヤーの選手に直接教えてもらうことで、よりタグラグビーに興味をもつことができた。



富田選手のお話

お話をしてもらったり、質問に答えていただく時間を設けたりすることにより、目標をもつ大切さや、W杯、五輪への関心を高めることができた。



タグラグビー教室を終えての子どもたちの感想

楽しみにしていること、できるようになりたいことなどを書かせた。

「富田選手のようにになりたい」といった感想や数日後に控えたタグラグビー大会への思いを書いた児童が多くいた。

- ・タグラグビーの大会で、もっと上手にパスを出してトライを決めたいです。(6年 男子)
- ・声をかけあって、タグラグビーのパスを早く回せるようにしたいです。最後にオリンピックについても質問できて、とても感動しました。今度のタグラグビーの大会でも優勝目指してがんばりたいです。またいつか富田選手に会ったらサインをもらいたいです。(6年 女子)
- ・タグラグビーをもっと上手になりたいと思いました。(5年 男子)
- ・富田選手みたいに動きが速くなりたいです。(5年 女子)

今後の取組について

「遊び・運動大好きやまぐちっ子育成事業」を終えて

今回の取組を通して、いろいろな運動遊びを知りその楽しさを味わったり、タグラグビーへの興味を深め、タグラグビーを好きになる子どもを増やしたりすることができた。この機会を生かして、子どもたちが楽しみながら運動に取り組む活動を今後も仕組んでいき、「走ること」の課題の改善につなげていきたい。